

あとがき

本書は20年にわたって12回実施された学生へのアンケート調査によって明らかになったことを、より明確に示すために編集・刊行されたものである。こうした形で分析し比較考察してみると、この時期の若い世代の宗教意識や宗教行動を考えていく上で非常に参考になるデータに満ちていることがよく分かる。いずれの質問項目も、主に宗教社会学を専門とする研究者が相談して作成したものであるので、今後別の企画によって行われるアンケート調査においても、参考にさせていただければ幸いである。この調査を参考にしたものであることを明記してあれば、質問内容や回答の選択肢をそのまま利用していただいてもけっこうである。こうした大がかりな調査は、そのままのやり方ではなかなか難しいかもしれないが、ネット時代にはまた新しいやり方が可能になるのではないかと考えている。

編集作業をしながら、この分析のもとになる調査が実に多くの方々協力によって継続できたものであったことをしみじみと感じた。メンバー以外にも貴重な講義の時間を割いてアンケートに協力していただいた方が数多くおられる。各調査メンバーがさまざまな講義を担当されている教員に依頼し、快く引き受けていただいたのである。

各回のアンケートの実施と分析は調査メンバーが行ったが、実際の作業でもっとも時間がかかったのは回収されたアンケートの入力作業である。データベースソフトを使っ
てのコンピュータ入力は非常に根気のいる仕事である。入力と分析作業に毎回数か月を費やした。また韓国での4回の調査にあたってはアンケート文の翻訳の他、回答の自由記述文を翻訳するという作業もあった。こうした作業には、編者の本務校である國學院大学の学生・院生の他、非常勤講師に行っていた日本女子大学、東洋英和女学院大学の学生、さらに東京都立大学や東京大学の学生の方たちにもお手伝いいただいた。ほとんどの学生・院生の方が調査そのものに関心を抱いて作業に従事してもらったようなので、これも有難くまた嬉しく感じた。

本書に収録した図表の作成に当たっては、國學院大学大学院生の西尾拓海氏にかなりの部分を協力してもらった。篤く感謝申し上げたい。

なお、12回の報告書にはそれぞれ入力及び翻訳のお手伝いいただいた方々の名前が記してあるが、ここにあらためて全員の名前を記し、あらためて感謝の意を表したい。

佐藤理恵、北詰裕子、東千尋(2)、石野祐子、真下さやか、岩崎倫子(2)、川井真澄、関優夏、岡村文子(3)、伊藤久美(4)、田中さつき、樋口美幸、吉田愛、イ・ヨンス、日比野由利、野村歩、金子香奈里(2)、イ・ファジン(2)、玉置麻衣、杉内寛幸、三橋あづさ、宮崎浩一、山本一了、杉山美咲、成田圭佐、吉田尚文、中畑香々菜、奈良朋哉、西尾拓海、水野聡美。

*敬称略、調査実施回順、()内は複数回手伝ってもらった場合の回数

2018年1月

編集責任者 井上順孝

学生宗教意識調査総合分析

(1995年度～2015年度)

発行 國學院大學日本文化研究所

東京都渋谷区東 4-10-28

編集責任者 井上順孝

発行日 2018年2月21日

印刷所 金山印刷株式会社

学生宗教意識調査総合分析

（1995年度～2015年度）

國學院大學日本文化研究所編